

東成区

わが町の

まつり フォト



懐しのアルバム

◇ 東成区民まつり……………2

◇ 校下盆おどりと地蔵尊……………6

◇ 歴史と伝統とまつり……………18

◇ 各種イベントとまつり……………23

◇ 「座談会」わが町のまつり今昔……………24

発行：(財)東成区コミュニティ協会

懐しのアルバム

東成区民まつり



東成区民まつりの前身は、昭和49年に東中本小学校で開催された「東成区民納涼の夕べ」とその翌年に、宝来小学校及び区民ホールで開催された「東成区制50年記念のつどい」に求めることができます。

昭和51年に東成区コミュニティ協会が設立され、その年に当協会主催による第一回目の「東成区民まつり」が今里小学校で華々しく開幕されました。

その後、会場は毎年校下巡回方式（片江、中本、神路、東小橋、大成、北中道、中道各小学校）で実施され、昭和59年に浮江小学校を最後にその方式の幕がおりされました。

その間「東成音頭の制定」、「大阪築城四〇〇年記念区民まつり」等様々なイベントが催され、昭和60年より現在の主会場「東中本公園」で毎年開催される運びとなりました。

「東成区の花バラ、パンジーの制定」、「大阪市制一〇〇周年記念」事業等は年々発展して行く東成区民まつりに高層の華を咲かせ、東成区のコミュニティの発展につながったといえるでしょう。

「区民納涼の夕べ」

S49. 8. 8 主会場……東中本小学校



区制50年 記念のつどい



「区制50年記念のつどい」

S50. 8. 9 主会場……宝来小学校
東成区民ホール



「東成区コミュニティ協会設立第一回目の区民まつり」

S51. 8. 7 主会場……今里小学校

懐しのアルバム東成区民まつり



“大島市長（当時）を囲んでのひととき”
S55. 8. 10 主会場……東小橋小学校



“のど自慢大会”
S56. 8. 8 主会場……大成小学校



“区内パレード”
S57. 8. 7 主会場……北中道小学校



“大阪築城400年記念区民まつり”
S58. 8. 6 主会場……中道小学校

“東成音頭作詞者 保田信雄氏の表彰”
S52. 8. 5～6 主会場……片江小学校



保田信雄氏 作詞
上野山正男 作曲・編曲
小笠原美都子
上野山正男とシルバーストーンズ
三橋 佳野子
合唱 NHK放送合唱団

「おきなじみの」今更片江
すいてすかれた 中道どうし
深江の伯父屋に 中道たのみ
ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ
神路ちこた 大橋やないか
ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ
かわい小橋も できたの
ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ
深江音頭 せい出こめて
人になたりや この紅だすき
おきなじみに ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ
ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ
あのかええね かわめてらね
ほにらうて 世帯をかせ
ほにらうて 夢みんや
ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ
ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ、ホンマヤ



“校下婦人会のアイディアブラカード”
S53. 8. 6 主会場……中本小学校



“校下子供こし会場に集合”
S54. 8. 4 主会場……神路小学校

懐しのアルバム東成区民まつり



“婦人会民謡の輪”
S62. 8. 2 主会場……東中本公園



“深江民芸館—深江歴史コーナー”
S59. 8. 12 主会場……深江小学校



“区の花バラ・パンジー制定セレモニー”
S63. 8. 7 主会場……東中本公園



“可愛い動物のミニ動物園”
S60. 8. 4 主会場……本庄中学校
東中本公園



“神路ジュニアバンド入場”
S61. 8. 3 主会場……東中本公園

記念区民まつり”



H1. 8. 20 主会場……東中本公園(昼の部)

懐しのアルバム東成区民まつり



“子供夢の国オープン”
H4. 8. 8 主会場……東中本公園



“ミニ蒸気機関車と子供達”
H2. 8. 5 主会場……東中本公園



“バナナのたたき売り”
H5. 8. 7 主会場……東中本公園



“各コーナー、模擬店大盛況”
H3. 8. 3 主会場……東中本公園



“チンドンマン登場”
H6. 8. 6 主会場……東中本公園

“大阪市制100周年

H1. 8. 20 主会場……片江小学校(夜の部)



区民まつり協賛

校下盆おどり

地域に伝わる

地藏尊(盆)

かき氷、わた菓子、金魚すくいなど

夜店での楽しみに胸をふくらましなが

「お母ちゃんゆかた着せて！」

花ちゃんと盆踊りに行くの」と

母にねだった幼い日の想い出……

皆様方からお寄せいただいた

各地域の「まつり」をまとめてみました。



東小橋

東小橋納涼盆踊大会は、東小橋連合町会、社会福祉協議会、東小橋本通商店会、東小橋南商店街、各種団体のみなさん方によって、毎年8月4・5日に東小橋公園周辺を主会場に開催されます。

その両日に開催されるのは、地元の役員さんの話によりますと、昔、東小橋本通商店街は川が流れていて、ハシゴとか板を川にかけて商売をしていた頃の橋渡しからのゴロ合わせから来ています。

夕ぐれになると、本通商店街に夜店が立ち並び、ゆかた姿の納涼の人々と民謡パレードで大へん賑わいます。

- ◆ 近年の開催日
- 平成4年8月4・5日 東小橋公園
- 平成5年8月4・5日 東小橋本通商店街
- 平成6年8月4・5日



地蔵尊(盆)



名 称	所在地	願 い 事
北向延命地蔵尊(盆)	東小橋1-1-7	延命安全
子安地蔵尊(盆)	東小橋1-17-20	子供の安全
水呑地蔵尊(盆)	東小橋2-8-18	脚気の治癒
延命地蔵尊(盆)	東小橋3-6-25	町内安全
延命地蔵尊(盆)	東小橋3-13-3	子供の発育
親善子安地蔵尊(盆)	東小橋3-17-23	家内安全

大成

大成盆踊大会は、大成各種団体協議会主催のもとに、地域住民の協調の場とコミュニケーションづくりを求めて8月中旬、大成小学校校庭で開催されます。

ご婦人子供達による盆踊り、その周辺には、福引き、たこ焼、金魚すくい等が会場を一層盛りあげ、楽しいメロデーが夜遅くまで流れます。

◆近年の開催日

●平成5年8月18・19日 大成小学校校庭



地蔵尊(盆)



名 称	所 在 地	願 い 事
日限地蔵尊(盆)	大今里西3-1-12	一つの願い事
延命地蔵尊(盆)	玉津3-5-11	町内安全
子安地蔵尊(盆)	玉津3-5-13	首から上の病気治癒
子守地蔵尊(盆)	玉津3-6-16	子供の無病息災
北向地蔵尊(盆)	玉津3-13-15	安産・子授け

今里

今里納涼盆踊りは、今里社会福祉協議会主催、各種団体協賛のもとで八月中旬に今里小学校において開催されます。

近年は、たそがれ時より来場者全員で夏の唱歌の大合唱が始まります。

日が暮れ、照明の光があでやかになる頃、会場には踊り子さん達が揃い、誰でも踊れるようにやさしい音頭から始められます。

盆踊りの周辺には模擬店が並び、福引の景品が山積みされ楽しさいっぱい夢いっぱいのひとときです。

◆近年の開催日
 ●平成4年8月16・17日 今里小学校校庭
 ●平成5年8月14・15日 今里小学校校庭
 ●平成6年8月14・15日 今里小学校校庭



地蔵尊(盆) 他



名 称	所 在 地	願 い 事
母子保健地藏尊(盆)	大今里西1-19-29	母子保健
法施地藏尊(盆)	大今里1-27-26	町内安全
北向地藏尊(盆)	大今里1-33-2	交通守護
日限地藏尊(盆)	大今里1-36-12	子供の安全
北向日限地藏尊(盆)	大今里3-4-26	万事願い事
西蓮寺地藏尊(盆)	大今里3-8-32	学業成就
宮ノ坂北向日地藏尊(盆)	大今里3-26-12	交通安全
大川子安地藏尊(盆)	大今里3-26-33	子供の安全
日限地藏尊(盆)	大今里3-4-26	家内安全
黒龍大明神祭	大今里1-14-12	魔除け

中道

中道納涼盆踊大会は、夏の夜のひととき、なごやかな心の通い合う憩いの場を求めて、中道社会福祉協議会、連合町会、各種団体のみなさん方によって8月初旬に玉津

公園において開催されます。

日も暮れ、盆踊り開始の直前には、夜空に華々しく花火が舞い上り、その合図でご婦人層、子供達の踊り子さん達が、流れる音頭に身ぶり手ぶりも軽やかに盆踊りがたけなわとなります。

家族づれの見物人と一体となってコミュニケーションの輪が公園いっぱい広がります。

◆近年の開催日

●平成5年7月31日・8月1日



地蔵尊(盆)



名 称	所 在 地	願 い 事
矢田地蔵尊(盆)	東小橋1-4-2	延命
子安地蔵尊(盆)	東小橋1-7-17	安産
北向子安地蔵尊(盆)	東小橋1-8-3	家内安全
延命地蔵尊(盆)	玉津1-5-26	延命
平戸地蔵尊(盆)	玉津2-4-8	子供の安全
延命地蔵尊(盆)	玉津2-9-27	無病息災



北中道

北中道盆踊大会、各種納涼大会は北中道
社会福祉協議会、各振興町会、各種団体の
みなさま方によって、各地域の会場で8月

中に開催されます。
それぞれの会場では、夜店、盆踊り等夜
遅くまで、楽しく家族づれの方々と賑わい
ます。

◆近年の開催日
●平成4年8月25・26日 自衛消防隊盆踊り大会
●平成4年8月7・8日 北中道納涼大会
●平成5年8月1日 バザーと夜店



地蔵尊(盆) 他



名 称	所 在 地	願 い 事
延命子安地蔵尊(盆)	中道2-7-1	延命
うかべ地蔵尊(盆)	中道2-26-25	上半身の病氣治癒
厄除地蔵尊(盆)	中道2-26-30	子供の安全
子安地蔵尊(盆)	中道2-15-10	子供の安全
北之子安地蔵尊(盆)	中道4-4-13	眼病治癒
子安立江地蔵尊(盆)	中道4-13-1	無病息災
火除大明神	中道2-8-9	火除け



中本

中本納涼盆踊大会は、中本社会福祉協議会、中本婦人会共催のもとに8月中旬に南中本公園において開催されます。

公園の中央にやぐらが設置され、踊り子さん達がゆかた姿で身ぶり手ぶり、夜の更ける迄、楽しく踊ります。

公園の木々のあい間より、夜店に興じる楽しい子供達の笑顔がのぞかれます。

- ◆近年の開催日
- 平成4年8月15・16日 南中本公園
 - 平成5年8月14・15日 南中本公園
 - 平成6年8月15・16日 南中本公園



地蔵尊(盆)



名 称	所 在 地	願 い 事
無二地蔵尊(盆)	大今里西1-6-17	家内安全
北向地蔵尊(盆)	大今里西1-15-3	子授け
日限地蔵尊(盆)	中本4-2-13	日限願い事
豆八地蔵尊(盆)	中本4-6-8	子守り
北之地蔵尊(盆)	中本4-7-5	子授け
榎木地蔵尊(盆)	中本4-7-17	安産
子安地蔵尊(盆)	中本5-12-26	無病息災
北向地蔵尊(盆)	中本5-10-57	子安
延命地蔵尊(盆)	中本5-18-10	延命

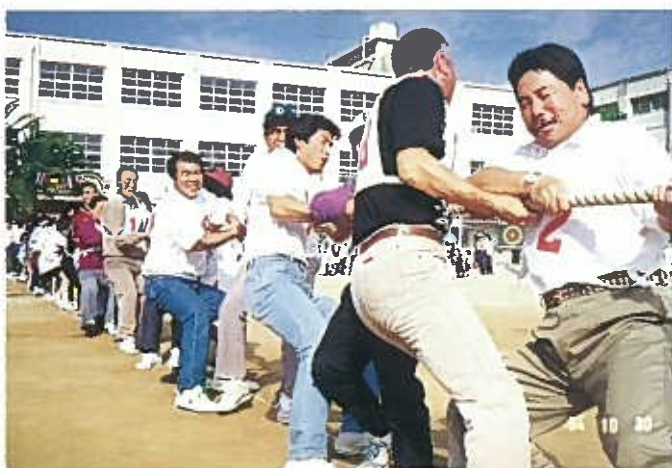
東中本

東中本フェスティバルは、毎年秋空の輝く太陽の下で、家族と共に地域のコミュニティを広めることを目的として、東中本社会福祉協議会、各種団体主催のもとに東中本小学校校庭で開催されます。

お父さん、兄さんと一緒になって綱引き大会、お母さんのパン喰い競走等、色々趣向をこらした競技で会場は声援と笑顔で楽しい一日となります。

◆近年の開催日

- 平成4年11月1日 東中本小学校校庭
- 平成5年10月3日 東中本小学校校庭
- 平成6年10月30日 東中本小学校校庭



地蔵尊(盆)

名 称	所 在 地	願 い 事
子安地蔵尊(盆)	中本3-4-27	子供の成長
釈迦地蔵尊(盆)	中本3-13-11	子供の健康
一願地蔵尊(盆)	中本3-14-2	子供の安全
一願地蔵尊(盆)	中本3-13-11	子供の健康
北向地蔵尊(盆)	中本5-20-2	子供の安全
子安地蔵尊(盆)	東中本1-8-10	子安
子安地蔵尊(盆)	東中本3-3-7	安産
北向虫切大つゑ火除地蔵尊(盆)	東中本3-6-3	子供の虫切
おせき地蔵尊(盆)	東中本3-9-12	交通安全
延命地蔵尊(盆)	東中本3-10-14	健康
北向子安地蔵尊(盆)	東中本3-20-31	進学祈願
子安地蔵尊(盆)	大今里1-2-24	子供の守護
澤田家地蔵尊(盆)	大今里1-3-12	町内安全
大念佛同行地蔵尊(盆)	大今里1-3-12	家内安全
北向地蔵尊(盆)	大今里1-6-28	子授け
楠本家地蔵尊(盆)	大今里1-17-6	町内安全
玉楠地蔵尊(盆)	大今里1-17-6	町内安全
東向延命地蔵尊(盆)	大今里1-18-12	家内安全
清交園地蔵尊(盆)	大今里1-19-18	子安



神路

神路民踊大会は毎年恒例的に8月初旬に神路社会福祉協議会主催、振興町会はじめ各種団体後援のもとに神路小学校において開催されます。

校庭の特設ステージには「ふれあう心で

神路はひとつ”青少年に夢と希望を”等の垂れ幕がかげられ神路地区のコミュニティの輪が踊り子さんの輪のように広がります。

涼を呼ぶ”かき氷”他、わた菓子等にも子供さんの人気をよびます。

◆近年の開催日

●平成4年8月6・7日

●平成5年8月5・6日

●平成6年8月4・5日

神路小学校校庭

神路小学校校庭

神路小学校校庭



地蔵尊(盆) 他



名 称	所 在 地	願 い 事
北向地藏尊(盆)	神路4-2-21	家内安全
日限地藏尊(盆)	神路4-6-11	咳の治癒
子安地藏尊(盆)	神路4-7-22	交通安全
日限地藏尊(盆)	神路4-16-14	子供安全
底谷地藏尊(盆)	大今里4-27-14	交通安全
慈眼地藏尊(盆)	東今里3-22-37 パレス緑橋マンション内	眼病の治癒
今里観音	大今里2-37-1	子供の病気治癒

深江

深江納涼盆踊大会は、深江青少年福祉委員会、青少年指導委員会、子供育成連絡協議会、各種団体の方々と毎年恒例的に8月中旬に深江南公園で開催されます。

流暢な音頭とたく太鼓の名調子で踊り子さん達も心うきうき手と足も揃います。お年寄りの方々に別途観覧席も用意され、夏の宵のひとときを楽しくすごします。

◆近年の開催日

- 平成4年8月16・17日 南深江公園
- 平成5年8月15・16日 南深江公園
- 平成6年8月20日 南深江公園



地蔵尊(盆)



名 称	所 在 地	願い事・他
安全合掌地蔵尊(盆)	深江南1-11-7	交通安全
水呑地蔵尊(盆)	深江南2-3-34	家内安全
蛸地蔵尊(盆)	深江南2-7-8	子供安全
子安地蔵尊(盆)	深江南2-14-24	子供の病気治癒
北向地蔵尊(盆)	深江南3-7-6	あんどの辻
中小路地蔵尊(盆)	深江南3-13-28	町内安全
南小路地蔵尊(盆)	深江南3-16-14	子供安全
御通告地蔵尊(盆)	深江南3-17-26	万事願い事

片江

片江盆踊大会は、片江青少年福祉委員会、青少年指導委員会の主催により毎年恒例的に8月初旬に片江小学校校庭で開催されます。

ゆかた姿の踊り子さんの輪の周辺では、ヨーヨーつり、スーパースクールすくい等が見え、姉さん達のお世話で行われますが、中でもアイスクリームコーナーには子供達に人気があり長い行列が出来ます。

◆近年の開催日

- 平成4年8月9日 片江小学校校庭
- 平成5年8月5・6日 片江小学校校庭
- 平成6年8月4・5日 片江小学校校庭



地蔵尊(盆)



名 称	所 在 地	願 い 事
日隈地蔵尊(盆)	大今里南1-14-7	縁組・進学
南向地蔵尊(盆)	大今里南1-14-14	町内安全
南二西子安地蔵尊(盆)	大今里南2-12-6	子供安全
北面豊饒二面地蔵尊(盆)	大今里南3-4-24	足の病の治療
吉熊地蔵尊(盆)	大今里南5-9-15	町内安全
福德延命地蔵尊(盆)	大今里南6-6-21	受験・就職
雨傘地蔵尊(盆)	大今里南6-27-6	商業繁栄

宝栄

宝栄盆踊り大会は、宝栄社会福祉協議会及び盆踊実行委員会の主催のもとに8月初旬に宝栄小学校校庭で開催されます。

仮装した踊り子さん達と一緒に踊る子供達、その周りにはPTA、子供会の方々のお世話による模擬店が開催されます。その模擬店には大勢の子供が集まり、金魚すくい等に夢中になる子供さんの横顔は恒例の盆踊り大会の楽しさを一層ひきたてます。

◆近年の開催日
●平成5年8月5・6日 宝栄小学校校庭
●平成6年8月9・10日 宝栄小学校校庭



地蔵尊(盆)



名称	所在地	願い事
延命地蔵尊(盆)	深江北1-4-27	延命
こり地蔵尊(盆)	深江北2-2-27	厄除
深江北4町会地蔵尊(盆)	深江北2-13-20	子供の成長
延命地蔵尊(盆)	東今里1-1-16	長寿
日限地蔵尊(盆)	東今里3-11-17	日限願い事
西之町地蔵尊(盆)	東今里3-14-15	家内安全
水守地蔵尊(盆)	東今里3-15-25	町内安全
北地蔵尊(盆)	東今里3-16-30	子供安全

歴史と伝統とまつり

比賣許曾神社 ひめこそ

所在地 東小橋三丁目八番十四号

御祭神 下照比賣命

夏祭 七月第三土・日曜日

秋祭 十月十六日



比賣許曾神社は今から約二千年前垂仁天皇の時に愛久目山（天王寺区小橋町一帯）の高台に下照比賣命を祀って高津天神と呼ばれたのが起源であります。推古天皇の時代には聖徳太子がお参りになったと伝えられています。

時代は流れ、室町時代には戦火に遭い、將軍足利義晴が社殿を再建致しました。しかし天正年間織田信長の石山本願寺攻めの時にまた戦火に遭い、その後小橋村の人達が御神祇を奉護し現在の地に移し比賣許曾神社と称しました。又、愛久目山（天王寺区小橋町）の旧地には祭神、大小橋命の産湯の井戸があり産湯桶荷神社として祀られており、現在比賣許曾神社のお旅所となっています。この産湯桶荷神社も大阪大空襲で焼失し、昭和三十九年、産湯桶荷神社復興委員会によって現在の様に再建されました。夏祭は七月第三土、日曜日で、お旅所まで獅子舞、まくら太鼓、みこし、だんじり等が巡行します。



歴史と伝統とまつり

八坂神社

所在地 中道四丁目八番二〇号
御祭神 素盞鳴尊・菊理姫命
夏祭 七月第三土・日曜日
秋祭 十月十六日・十七日
戎祭 一月九日・十日・十一日



八坂神社は寛仁元年に関白、藤原道長が別邸を建て「牛頭天王白山権現」を鎮守の神として奉祀したのにはじまると伝えられています。
南側には奈良の都、伊勢神宮へ通ずる暗越奈良街道があり、人々の往来が頻繁だったということです。
明治五年に村社として「八坂神社」に改名されました。御祭神はあの著名な八岐の大蛇を退治された素盞鳴尊をお祀りし、昔から疫病悪事災難、悪魔を鎮める御霊徳を持たれ一月十五日の「どんど」の神火を受けて帰り御飯を炊いて食べると一年中疫病にかからないといわれています。又、菊理姫命は昔から縁結びの神として有名です。
夏祭は七月第三土、日曜日に行なわれ、だんじりの巡行、氏子の演芸大会等境内は出店で賑わいます。
境内の西側には恵美須大神が祀られており、一月九日、十日、十一日、は商売繁昌を祈願して、多くの善男善女が参詣をします。



歴史と伝統とまつり

八王子神社

所在地 中本四丁目二番四十八号
御祭神 八王子大神・宇賀御魂神
夏祭 七月第三土・日曜日
秋祭 十月十六日・十七日



八王子神社の創建は今から約千七百年前、応神天皇の頃と云われています。神社一帯は小松山という丘に位置し、東側には平野川が流れ、攝津国東生郡本庄村といわれておりました。昔は八王子稲生神社と称し、里人達は産土社として崇敬してまいりました。

明治四十二年に西今里村社八剣神社（境内には樹齢千年を越す楠樹がある）ところから俗に「楠神社」と呼ばれるを合祀し、社名を現在の八王子神社に改称されました。

楠神社は現在八王子神社のお旅所となっています。八王子神社の境内には昔から椿が繁茂し、椿の宮として世に知られ、孝徳天皇が浪速に來られた時、高麗狗一対を御献納されたと伝えられています。

当神社の主祭神、八王子大神は武勇にすぐれた神様で厄除の守護神として地域の人々に崇められています。

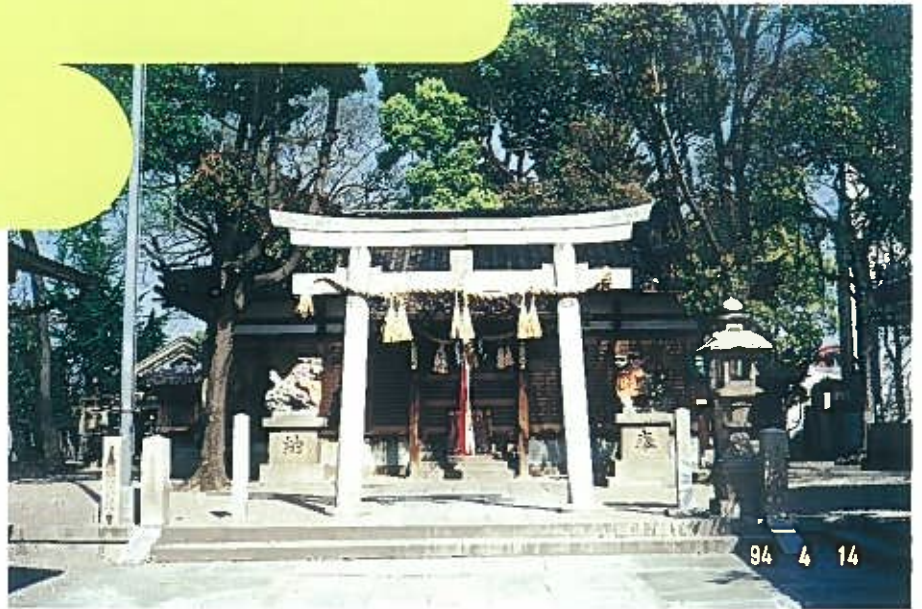
夏祭は七月第三土、日曜日でだんじりが地域を巡行します。又二月三日の節分祭には夕方六時より「厄除護摩焚」が約二百数十年の昔から受けついで伝統行事で「宣一、二講」がしめやかにとりおこなわれます。当日は東中本、北中道、今里地区から又、城東区からも多数の参詣者があります。



歴史と伝統とまつり

熊野大神宮

所在地 大今里四丁目十六―四十八
御祭神 伊弉册尊・ほか五柱
夏祭 七月十六日・十七日
秋祭 十月十六日・十七日



94 4 14

熊野大神宮の創立年代は少なくとも千四百年以上を経ており、用明天皇二年（五八六年）聖德太子が四天王寺を創設された時、当社に拾二坊の伽藍を建立され、当社の社務を司どられました。

当時は境内も広く社殿は麗しく祭事も盛大にとり行なわれていたと伝えられています。

元龜元年（一五七〇年）石山本願寺と織田信長との合戦の際、伽藍、社殿は兵火に遭い焼失し、現在の妙法寺に社殿が仮に建立されましたが、慶長九年（一六〇四年）阿闍梨祐忠が本殿及び拝殿を再興しています。

慶長十九年（一六一四年）の大坂冬の陣には徳川方の陣屋となり、その翌年元和元年（一六一五年）松平下総守忠明が大阪城代に就任して以来、城代就任時には当社を参拝するのが恒例となりました。延宝七年（一六七九年）阿闍梨契沖が社僧となり万葉代匠記を著わしたのは有名です。明治八年村社となり、熊野十二所権現の社号を熊野大神宮と改称、明治四十四年に東今里村社を合祀し、現在その地はお旅所となっています。

住吉（大佐）十二代目川崎宗吉の作と言われる本社、安政二年（一八五五年）の作と伝えられるお旅所の各だんじりは、毎年夏祭にはだんじりばやしを響かせながら、にぎやかに曳行されています。



深江稲荷神社

所在地 深江南三丁目十六番十七号

御祭神 宇迦御魂神・下照姫命

夏祭 八月一日

秋祭 十月十七日



深江稲荷神社の創建は垂仁天皇の時代に笠縫氏の祖先が攝津国東生郡笠縫島宮浦の地（現在の深江南三丁目）に居住し、下照姫命を奉祀したのが始まりで、その後元明天皇和銅年間（京都）の伏見稲荷大社の主祭神、宇迦御魂神を勧請したものとされています。昔、この附近一帯は水田地帯で農耕の神として永年信仰されてきました。

慶長八年に豊臣秀頼公が社殿を改造したが同十九年に兵火によって焼失しました。その後、宝暦十年に本殿及び絵馬堂を再興し寛政八年に本殿、拜殿を修復し、現在の石鳥居は当時のものといわれています。境内には、笠縫部の先祖を奉祀する笠縫神社があります。

笠縫氏は、歴代天皇御即位式の大嘗祭や伊勢神宮式年遷宮の時に用いられる菅御笠はすべて深江から献納されてきました。

大阪はなれて早や玉造、笠を買うなら深江が名所、ヤートコセ、ヨイヤナー

夏祭は毎年八月一日で午後五時より境内において「献湯の神事」が巫女によってとりおこなわれています。

秋祭は氏子の有志によりまして、手作りの店で賑い、コミュニティを深めています。

十月二十八日の火焚祭には夜、境内に焚火され、人長の舞が奉納される優雅なお祭りです。



歴史と伝統とまつり

さいのおおがみ 歳久大神

所在地 大今里一丁目三四番三〇号
祭………十月の終り又は十一月の
初めの日曜日

歳ノ神（寒神）は、古来より村境や峠や道の辻
等で祀られており、道路を守り、悪気、邪神をさ
えぎる道祖神ともよばれています。
この今里にお祀りする歳ノ神は、一五八三年（天
正十一年）豊臣秀吉が大阪城を築城するにあた
り、その守り神として城をとりまく周辺の要所十
数ヶ所に祀らせたものの一つであると伝えられて
おり、今里の場合は大阪城に一番近く、城より巽
の方角にほぼ一里毎に数段に重なつて祀らせたも
のであると推定されます。大阪築城から今日まで
約四〇〇年間、幾多の戦禍、風水害等天・人災に
遭つたが、地元住民によつて代々守護神として祀
られて来ました。



各種イベントとまつり



“桜まつり” 北中道幼稚園H. 6. 4. 9



“片江ゆずりはの道” 完成記念バレエH. 6. 2. 4. 18



“御堂筋パレード”参加 東成区子供みこしH. 6. 10. 10



“桜まつり” 西之口公園H. 6. 4. 1



“子供カーニバル” 東成会館H. 4. 12. 4



“区民体育祭” 大阪城公園H. 6. 10. 16



座談会

わが町のまつり会

森口 テーマは祭ということですが、非常に幅が広く定義的には、本来、神とか祖先を迎えて、超自然的なイメージでもてなして、一族あるいは村の平和としかあわせを念願する集団的な儀礼であった様に理解しております。

これが集団の祭りとなりますが、祭りには又、家の祭りというのがあります。集団の祭りには日本固有の文化を伝える祭礼というものがありまして、これは人々の目には、ふれにくいものです。この事は後ほどお話し頂くとして、祭りに伴って神を迎えてもてなすものですから、段々と賑やかになって来ます。

そういうものが、「だんじり」とか「みこし」とか「おかぐら」「獅子舞」とかに芸能化され、人々の目につく、いわゆる「まつり」として発展してきたものと思います。

又、仏教の影響もあり、それに伴って盆踊りとか地藏盆という祭りの形態も派生してきたものと思われま

す。
一方、どんどん変化してきて、例えば都市においては、区民まつり、フェスティバルの様な人工的な祭り

もあります。

祭りというものは、神事からはじまって、芸能化され人工的な祭りに発展してきました。

又一方、個人の家の祭りというものもありまして、正月の行事からはじまって、ひなまつり、五月のこいのぼり、七夕まつり、それからお盆の前に迎える祭りという様な家のまつり、広い意味で村の祭りがあるとすれば、個人の家の祭りという祭りもあります。

只、祭りというものに共通するものといえば、暮しの中の節目、祭りを通じて地域の連帯感とか、村に関する帰属意識といいますが、我々は、ここに住んでいるんだという意思表示の顕れと解することもできます。

又、歴史・文化・伝統を守ると同時に、それを通じて町が賑わっているという、ひとつの在り方ということもできます。

温故知新といいたしうか、昔はこうだったということを出して、そこから未来の祭りを模索するというのを今回のテーマしたいと思います。

ご出席

座長	森口 隆次	(大阪市立博物館長)
	山口 清作	コミュニティ協会 (区民まつり) (理事長、実行委員長)
	平池 靖司	(同) (副理事長)
	清水 弘	(同) (区民まつり) (副理事長、企画委員長)
	金岩 慶子	(同) (監事)
	友田 譲	(大阪府文化財愛護推進委員)
	小川 治海	コミュニティ協会 (理事)
	備後 博明	(同) (理事)
	丸野 博行	(同) (常務理事・東成会館長)

「座談会」わが町の今昔

祭りにおける

農村型と都市型

森口 大阪では多種多様な祭りが点在すると思います
が、東成区には特有な祭りがあったのでしょうか

友田 明治以降、農村での一般的な祭りは確かに変わって
きました

最も顕著な祭りとしては、秋祭りだけでしたが都市
化の影響で天神祭りの様な夏型の祭りが台頭してき
て、明治末期から大正にかけて夏祭りというものが盛
んになってきました。例えば、お弓祭りなどは、旧正
月の十一日に武者が矢を射るのです。その当たり具合
いで一年間の農作物の出来、不出米を占ったのです。

現在では、道具だけが残っていますが、形態としては
すでになくなりました。又、深江のふいご祭りなども
特色のひとつだと思います。

森口 確かに都市化の影響も大きいでしょうね。秋祭
りはいつ頃まで盛んでしたか。

友田 そうですね、大正の終わり頃までは一なにし
る生活に密着していましたから。大正十三年頃には、
まだ東成郡だったので、農地、つまり生活様式が農家
ということもありまして、まだ行なわれていた足跡は
あります。

森口 周辺の農地だったのが、徐々に住宅化してい
く、そういう過程を経て農業と結びついた祭りという
のは自然消滅していき、現実にあった祭り（夏祭り）
へと移行していく、いわば歴史的必然性の様な印象も
受けます。

友田 年中行事の一環として小正月のときには、どこ
の村でも「どんど」をしております、その火種を家
に持って帰りまして、地域一帯あづきがゆを炊いて小
正月を祝ったという例もあります。

山口 日本の産業構造の変化、つまり農業から商工業

中心に変わってきました、やはり国民の職業自体が変
化してきましたからね。それと、秋期には穀物の大半、
あるいは収入の大半を求められて、それが喜びの行事
でもあったのが、それもなくなる、秋には神の催事は
やっていますが、一般の参加者は少ないです。

小川 夏祭りと秋祭りのお話ですが、夏祭りという
のは町型が多く、秋祭りには農村型だと、確かに夏祭
りは、天神祭りや祇園祭りが代表されるものと思いま
すが。ひとつの見方として昔は農業の場合、肥料は
使うが、町ではその肥料の処理に困惑するということ
があつて気候、風土的に非常に不衛生なものが夏に波
及し、それが悪病の因になりそれを退散させる為に町
の祭りが賑やかになったという考えをもっておりま
す、ご承知の様に日本は湿気が多く、そういう不衛生
なことを放置されると悪病の因になるというわけ
です。

友田 江戸時代（東京）では人口百万人の都市です
からね、当時ロンドンですら六十万人ですから、世界の
中でも最大の都市でしょう、まして、狭い所にそれだ
けの人口ですから当然ながら疫病が発生する、とくに
六月頃梅雨どきに流行りやすいのですが、当時の考え
方として、疫病は悪い神、即ち疫病神が運んでくる
という信仰的なものがあつたと思います。

その中で一番強い神様の力によって放逐しようじや
ないかと、当時京都で一番強い神様は、スサノヲ尊
を祀っている祇園さんなのです。その力で追い払う
いうことでした。

森口 要するに秋型の祭りだったのが、夏型の祭りに
移行してきたということでしょうね。

私は祭りという「だんじり」というイメージがあ
るのですが、昭和三十三年の「東成区史」には、八王
子神社が昭和三年、戦前まで曳行したという記録もあ

りますし、比売許曾神社では、獅子舞が巡行したとい
うのがあります。

平池 子供の頃、熊野神社あたりで曳いて歩いた記憶
はあります。時代の移り変わりで、内容もずい分、か
わってきたと思います。

山口 だんじり曳行の場合、警察の許可がなかなか困
難でありまして、もちろん地車保存会はあるのですが
ごく近辺を巡行するにとどまっています。

確かに交通事情からすると危険とは思いますが――

森口 では、だんじりの稽古はどの辺でなさるので
しょうか、例えば、お囃子とかは――

平池 境内しかないでしょうね。

友田 昔は、なかなかうまくいっておりまして、青年
団の中で先輩が後輩を指導するという形態を村単位で
行っていました。いわば、社会教育機関的な役割も自
然に確立していたと考えます。現在では、そういうも
のがなくなり青年同志のコミュニティも以前に比べて
ずい分希薄になったと思います。

森口 そうですか、言い伝え、伝承という形態が風化
してしまつたのですね。それはどういう理由でしょう
か。だとしたら、現在はどういうふうな？

友田 例えば、地車保存会など、好きな者達が集まっ
て、お囃子や巡行のノウハウなんか伝承していたわけ
ですが、若中会などは、かつて村に住んでおれば必ず
入会しなければならぬ風習みたいなものがあり、そ
うでなければ、村八分にされるといふ、いわば良い意
味での封建性があったように思います。

伝承文化としての祭り

森口 確かに伝承というものは、文化として重要だけ

「座談会」わが町の今昔

ではなく、何かを伝えていく、いわゆる人から人への架け橋があることで、はじめて社会が成立するものとして、そういう意味で、やはり地域のコミュニティには「地車」というものを今一度再考して頂きたいものですね。

それから先程お話をしましたが、獅子舞はどうでしょう。確か区史には昭和三十年の秋まつりから登場したとありますが――

清水 昔から、比売許曾神社にありました。子供の頃から小銭をもらって、よく見に行つたものです。

金岩 今里では、青年会や子供会が、それなりに伝承しています。七・八年前から、例えば成人式などの行事にプロローグとして花を添えています。又、熊野神社の夏祭りには獅子舞やだんじりが商店街を巡行しています。

備後 私もよく憶えていまして、子供時分、獅子舞が来て恐かつたのでしよう、家の中へとじ込めたことがあります。(笑)

森口 やはり昔の古き伝統をよく知っている人が子供達にしっかりと伝承して頂きたいものです。昔のことですが、私の出身地では、祭りというと、サーカスとか、夜店、のぞきからくりなどがあつたように記憶するのですが、当区ではどうでしたか。

山口 そうですね――お宮さんに店が出て、確かサーカスのようなものもあつたように思います。――

森口 祭りというと露店というものがつきものなんです。が、どこの祭りへ行つても同じような物しか売ってないですね。当区では何か珍しいものがありましたか。

備後 飴細工や団子細工などがありました。といつても約十年前のものです。

金岩 今里ロータリーの近所には流しの猿回しがよく来てました。それからマジックショーもあつたように

記憶していますが。

森口 いわゆる大道芸ですね。

小川 大道芸といえば、芸人さん達が広場へ集まつてきて、何かやってた様なことは憶えていて、投げ銭をしました。子供の頃、そういう思い出があります。

友田 ただ問題は、演者が老齢化してしまつて、後継者がいないということでしょうね。マスメディアを通してしか、お目に掛かれなくなつたような気がします。すでに文化財的な存在になつてしまつたくらいはあります。そこで先程も言われたように、菓子類などの食品については、衛生上の問題で、なかなか許可がおりないというジレンマがありまして、段々とそういった類は衰退していったのでしよう。

備後 確かに熱を通さない食品は売りにくいですね。

森口 そういった事情はおつしやる通りだと思ひますが、やはり祭りの楽しさというのは、夜店があり、

様々な声や熱の入つた仕草に見い出すものなのではないですね。

森口 ところで本米道祖神というのは、歳ノ神様なんです。が、今、どういう形でされているのですか。

金岩 10月の最終の日曜日に祭りをしますが、七色の旗を立て、穀物や野菜をお供えて神主さんに御払いをもらひ、絵馬を奉納するわけです。

その絵馬というのは、干支が描かれていて、ちょうど「大阪築城四百年」を契機に復活したもので、翌年の猪で終了することになります。もちろんそれまでは近所の方達が守つていたわけですが。

森口 それはおもしろいですね。いつてみれば、地域が育てた祭りということでしょうね。食べ物なんかどうでしょう。か、独特の料理をされるのですか。例えば氏神の祭りとかには――

清水 バラ寿司をつくつてましたね。

友田 くるみ餅ですね。これは枝豆を蒸し、あん状にして和えるわけ。それで例えば、隣りの村の親戚へもつていく、そういうことが行なわれていました。

森口 では祭りのときの服装についてはどうですか、晴れ着など用意されてたのですか。

金岩 昔は、夏の祭りには、絵柄の入つた結の着物など用意してました。最近ではほとんど浴衣ですね。

友田 その点については、今の若い人達は情報をとり入れるのが早いので、デザイン的にカッコいいところだけ導入しているところが見受けられます。これは多分に岸和田のだんじり祭りの影響かなと思うところがあります。本米は地域によって、お囃子や衣装も違つていたはずですが、独自性というものがなくなつてしまつた様な気がします。

森口 確かに若者の特権みたいなところがありますね。



「座談会」わが町の今昔

区民まつりの

課題と展望

森口 そこで本来の祭りがある一方で、都市の祭り、いわゆる区民まつりということですが、当区では、いつ頃から始められたのですか。

清水 20年になるでしょうか、本年度で21回目とされています。それ以前は体協主催の民謡大会と称してやっておりまして、各校下を順番に回っていたのです。それから途中で大阪市の要請があり、区民レベルでのイベント即ち区民まつりを実現したいというお話があつてから最初の十一年間は各11校下の巡回方式でしたわけですが、ところが、校下によつては競争意識みたいなものが生まれ、年々それが拍車をかける結果となり、少ない経費でグローバルに実施するという基本理念から少々逸脱してきた経緯がありました。だから当然年々地域の負担が重荷になってきたのも事実で、それに対するクレームもいくつかは耳にしたことがあり、そういうことがあつて、現在の様な一ヶ所で集中して行なわれるようになったのです。

思うに、従来あつたある限定された行事というセレモニーに「祭り」というネーミングを施して、区民の参加を促したということになるでしょうね。ですから敬老会などもひとつの祭りといえるでしょう。

森口 考えてみますと、祭りというものは、従来、信仰の儀礼であつたのが、お祝い向きに変わってきた様な感じがしますね。だから先程の敬老会や何かの目的で参加し、集うというイベントは、形式は様々ですが、祭りの本質から少しも外れていないと思いませんか。

そもそも祭りとは、賑わいであり、生活における楽しみでもあるわけですね。

ところで、お子さん達の参加はどの程度あるのですか、増えているのでしょうか。

小川 各校下の子供みこしを出すようになってから、主会場へ集結した時は、一番盛り上がりつつたのではないかと思います。

友田 ただ伝統的な神社の夏祭りが区民まつり実施日と非常に接近していて、夏祭りの3日後に区民まつりが実施されるケースがありまして、いざ子供みこしを担ごうかという段階で子供達は、大変疲労していて、エネルギーがそこまで及ばない。ですから、区民まつりを少し延ばして頂いて、秋頃にもつていけないかどうか、望むところですね。

清水 秋期に区民まつりを実施ということになりますとなかなか各校下の足並がそろわないと思います。地域によつては、様々な行事が入ってきますし、お盆過ぎでは余計に困難なので、実のところ、8月の初旬にしているわけです。

備後 ここ最近、子供みこしの出場はありませんが、それに代わる子供コーナーがありまして、各地域の子供達が集団で参加しております。

友田 折角だんじりというものがありますので、区民まつりの賑わいの一端として参加するのも一興と思うのですが――

それと話に出ませんでした、各町内で地蔵さんが非常に盛んでして、おおかまに言えば、一町会にひとつぐらいの割合で分布していると思います。

地蔵さんを介して、町会単位という小さな地域でコミュニティが円滑に作用している場と考えています。

どういふことかと申しますと、それは子供の守り神だったり、古くは歳の神様だったのですが、かつては大阪独自の地蔵盆踊りがありました。現在は完全に消失したのですが、町会でご近所寄つて、この踊りが出来ないかとも思います。

聞く所によれば、吉本興業でこの踊りの元となる民謡を伝承する人がいらつしやるらしいのですが、東成

へ導入して、地蔵盆としてふさわしい祭りが伝承出来るのではないかと思いますね。

清水 だんじりに関しては、ただ問題は、当区の場合道幅が狭いという難点に加えて、交通規制があつて様々な難関をクリアしなければならぬ。簡単にはいきませんね。

森口 従来あつた昔の土着的な祭りと新しい都市化された祭りを、どううまくミックスさせるかが今後の課題だと思いますし、これからの区民まつりを考える上で必要なことでしょうね。

編集後記

子供の成長、町内の安全等を願つてとり行なわれる各地域の地蔵盆、明るい連帯感あふれる町づくりを目ざして開催される各校下の盆おどり大会やイベント、地域住民の繁栄と安泰等を願つて実施される日本古来より伝わる各神社の祭事、明るく楽しく健康にをテーマに繰りひろげられる区民まつりや各種団体の区レベルのイベント等を通して東成区内のコミュニティの輪が一石を投じて、水面が波紋を描く様に小さなものから大きなものへと広がってゆくのを感じられます。

編集に際しましては、区民の皆様方よりご寄稿ならびにご協力を賜わりありがとうございました。紙面の都合により寄稿の一部を割愛させて頂いた事をお詫び申し上げます。 編集部

東成区 わが町の

まつりフォト

発行 日 平成七年三月

編集・発行 東成区コミュニティ協会

大阪市東成区大今里西三六一六

電話〇六―九七二―〇七一一

印刷・製本 マスタ印刷工業社



東成区の花



バラ・パンジー